



作品「出会っていいな」。写真8枚による組写真

3日間で「組写真」を競う

大会は3人1チームで、同一フィールド、同一時間内、同一機材・同一メディアなど、同一条件下で多点数構成による「組写真」の作品を競う。審査はテーマを見つめる力、機材を使いこなす技術力、的確に伝える写真ならではの表現力の3要素で評価を行い、ファースト公開審査会とファイナル公開審査会の合計ポイントで順位を決定する。

ファイナル公開審査会では、自然をテーマにした作品「地球はみんな生きていく」を発表。点数は公表されなかったが、3人は審査員のコメントから高い評価を得ていると実感し、気持ちよく次のステージに進んだ。

ファイナル公開審査会に出品する作品はテーマを「人」に決め、まちで見かけた人に声をかけたり、見知らずのお宅を突然訪問したり、約20組を撮影した。よい表情を撮るには時間

をかけ、仲良くなることポイント。話しかけて相手の緊張をほぐしながら、その隙をみてレンズやアングラを変えて撮影するなど、3人がそれぞれの役割を認識し、「あーうん」の呼吸でシャッターを切った。

「偶然声をかけた大会ボランティアのおばちゃんは庄原市に親戚がいて、庄原の話題で盛り上がりたり、得意の英語力を生かして声をかけた外国人がノリノリでポーズをとってくれたり、本当に楽しく撮影できました」

3日間で撮影した枚数は合計で約3,000枚。その中から8枚を選び、組写真にする。写真を撮る以上に、限られた時間の中で写真選びは難しい作業だった。10分間だけ、監督がアドバイスできる時間が与えられたが、「みんないい写真を選んでいて、私はほとんど何も言うことはなかった」と田村教諭は話す。

悔しい準優勝

審査発表は、観客の投票



左から寺岡さん、池上さん、羽村さん、田村教諭

庄原格致高校写真部
池上友理さん(3年)
羽村矩美子さん(3年)
寺岡沙織さん(2年)

**クローズ
CLOSE UP
アップ**
話題の人に迫る

写真甲子園で準優勝

**3年ぶり
3回目の出場**

第14回全国高等学校写真選手権大会が7月24日、27日、北海道東川町・美瑛町・上富良野町を舞台に行われ、庄原格致高校が準優勝に輝いた。

この大会は「写真甲子園」とも呼ばれ、高校生にとって最も大きな大会の一つで憧れの舞台。全国から予選を勝ち抜いた8ブロック14校が出場した。

同校の出場は3年ぶり3回目、メンバーは写真部

の池上友理さん、羽村矩美子さん、寺岡沙織さんの3人。「この大会に出場することが夢でした。私たちは初めての出場で雰囲気も分からないので、具体的な目標は掲げず、とにかく楽しく写真を撮ることを心がけました」と話す。また、顧問の田村繁美教諭は今回で6回目の出場。「これまで写真をたくさん撮ってきて、トレーニングの量では負けていない。気持ちよく、楽しく写真を撮れば、結果はついてくる」と大会へ送り出した。



によって選ぶ特別賞から発表され、それに庄原格致高校が選ばれた。「観客といっても、写真が分かる人ばかり。もしかして、優勝?と期待を持った分だけ、結果を聞いた時、実はショックでした」と3人は話す。結果は悔しい準優勝だった。しかし、過去先輩が成し遂げた3位を上回る成績。田村教諭は「持ち味を100%出せば3位に入れると思っていたが、準優勝はみんなが100%以上の力を出した結果。大会を通してみんなが成長していった。この結果を誇りに思う」と3人をねぎらった。

日頃の努力に、池上さんの冷静な判断力、羽村さんのパソコン技術、寺岡さんの誰とでも話せる人なつっこさ、それぞれの個性を生かし、チームワークで勝ち取った栄冠。

「来年もこの大会に出場できるよう、がんばりたい」2年生の寺岡さんは、もう一度、夢の舞台に立つことを3年生に誓った。